

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ()
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 (補助金) 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 1 棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況) 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 園庭と園舎外観の写真

あゆみ幼稚園はめぐまれた自然や多くの人々とのふれあいを通して人間らしさの基礎を培うことや、表現活動を通して個性を伸ばし豊かな感性と創造力・表現力を育てることを目指している。実際に豊かな自然と、3段に分かれた園庭により遊びを誘発する仕組みが多くある。さらに園児たちは木造の園舎や家具などから自然のぬくもりを感じながら生活している。

■施設概要

教育の指標：めぐまれた自然や多くの人々とのふれあいを通して人間らしさの基礎を培う。

表現活動を通して、個性を伸ばし豊かな感性と創造力・表現力を育てる。

建設種別：幼稚園

所在地：神奈川県横浜市港南区港南 5-1-8

運営主体：学校法人 あゆみ学園

設立年月：昭和 30 年 4 月 1 日

設計者：宮脇檀

敷地面積：1734㎡

建物面積：563㎡

運動場面積：965㎡

構造：木造 2 階建て

定員：130 名

教育時間：8 時 30 分～ 14 時 00 分

(ただし水曜日は 11 時 30 分まで)

休園日：土、日、祝日他、創立記念日など

■運営概要

あゆみ幼稚園は昭和 30 年に創立し、今の園舎は 1974 年と 1977 年に 2 回に分けて建設された。

利用者数と職員数は以下のような内訳になっている。

・利用者数：176 名 (2019.11.06 現在)

[3 歳児 : 59 名, 4 歳児 : 65 名, 5 歳児 : 52 名]



写真2. 周辺状況 (出典：国土地理院*) 2007.04.26
市営地下鉄「港南中央」駅とバス停「港南区総合庁舎」から徒歩 2 分程度の場所にある。住宅街の中にあり、大型スーパーマーケットや役所も徒歩 2 分圏内にある。



写真3. 幼稚園正面入り口
近隣に住む園児が多く、通園は主に徒歩や自転車で行っている。1.1km 以遠の園児はバス通園ができる。

参考文献

- 1) 学校法人 あゆみ学園 あゆみ幼稚園 < <https://www.ayumi-kg.com/index.html> > 2020.06.15 参照
 - 2) 神奈川県内の子ども・子育て総合情報サイト < <https://c.rakuraku.or.jp/facility-search/fact/id/160?page=7> > 2020.06.15 参照
 - 3) 見学時資料 2012.02.20
- * 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス < <https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1> >



写真4. 保育室

・職員数：12名（2019.11.06 現在）

〔教諭：7名，教育補助員：3名，その他職員：2名〕

当園では親にも積極的に保育参加してもらっている。ただし自分の子どもにだけべったりつくのではなく、他の子どもに関わってもらっているという。実際に保育に参加し、子どもの成長過程と一緒に過ごすことによって、子どものことがより理解でき新たな発見をすることができる。他にもお母さんたちが中心となって、子どもたちの日々の園での生活を写真に収め、DVD アルバムを作る取り組みもしている。保育者もカメラを常時携帯していて、自分の保育を伝えるためのスナップ写真をいつでも撮れるようにしている。作品展の際はこれらの写真を厳選して展示し、保護者が見られない日々のシーンを伝えている。



図1. あゆみ幼稚園 園庭マップ

■建築空間

玄関ホールには、1階と2階を繋ぐ吹抜けがあり光が差し込んでくる。壁には日本の季節感や伝統を伝える装飾物がさりげなく飾られている。園に飾られている作品は保育施設らしいマスコットの動物などは一切飾っておらず、本物を飾るようにしている。本物の持つ良さをなんとなく子どもたちに伝えられるようにしている。玄関を正面にして左側の保育空間は、放射状に4室とトイレがあり、そのうち3室が保育室として、1室はアトリエとして活用している。アトリエとなっている部屋は子どもたちが作品をつくったり、遊具や子どもの作品置き場にもなっている。各保育空間にはそれぞれ天窗があり、暗さを感じない空間になっている。玄関を正面にして右側の保育空間は、片廊下型で2つの保育室があり、トイレは保育室ごとに近接してある。左側の保育空間の2階には預かり保育や図書の貸し出し等にも使われており、ロフトのような空間になっている。収納スペースとしても機能している。またここには園児たちが持ってきた人形や本などが置かれており、雨の日は子どもたちでいっぱいになる。右側の保育空間の2階には職員室がある。園庭の2段目と同一レベルでつながっており、職員が直接園庭に出られるようになっている。

■園庭

園庭は傾斜部分に3段構成になっており、階段又は舗装されていない坂でつながっている。木々が多いため、夏には葉が生い茂り日陰となる。1段目(したのにわ)は、泥落としや粘土造形活動、プール活動をするためのコンクリートが敷き詰められている。子どもたちはここでも追いかっこなどをして遊んでいる。2段目(なかのにわ、ひつじのひろば)は土の地面で、砂場、鉄棒、用具倉庫(用具倉庫の上はテラス上のスペースになっている)、飼育小屋(ちゃぼ、うずら、かも、うさぎ)、ジャングルジム、ままごと遊びの場などが設けられている。職員も2段目にいることが多く、園庭のメインとなっている。3段目(うえのにわ)にはサッカーゴールだけが置いてあり、デッキが設けられている。園長先生が週3回、8:30~9:00で希望している園児たちとサッカーをしている。2段目と3段目の中間(あゆみアルプス)には園を眺めることのできるテラスがある。あゆみアルプスの土は園児たちの団子づくりに使われるためあちこちに穴が開いている。



写真5. 園舎と園庭を繋ぐ通路



図6. したのにわ



写真7. なかのにわ



図8. うえのにわ

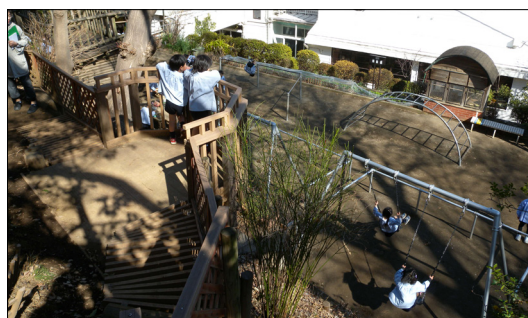


写真9. テラス

作成者：峯